

に埋めていたキャニスター等の分がどのような形になって、もしかして放射能が地上に出されるのではないかと心配もしているところがございますので、そういったところが将来的な想定外による安全性・危険性が排除できなかったというふうに捉えているところであります。

○議長（初村 久藏君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） まあ解釈はどうでもできるんですけど、やはり科学的な見地から、いろいろな専門家も話をしているわけですから、想定外の範囲というのは、私がさっき言ったような、そういう範囲しか起き得ないんです。そういう中での判断ということですから、私としては非常に憤慨をしております。

それであと3分くらいありますので、削除した分の市長の来年の選挙の分なんですけど、昨日の一般質問でもお聞きしました。今までの成果としては、ふるさと納税がまず上がってきています。これをやったんだと。しかし、よく考えてみると、このふるさと納税というのは前の市長がやろうと言ったけどもしなかったと。ただそれを指示しただけであって、それは成果でもなんでもないんですよ。全国市町村1,718あるけども、全部やってるんですから、それは成果ではない。そのくらいのことを成果ということであれば、これからの新しくもし通ればの話ですが、通った後の成果というのはもう何もないんですよ。そういう中での立候補はいかがかと思えます。

あなたが本当に市民のことを思えば、今までの実績が語るように、次の世代に譲る、それが最善の対馬の幸福を生む基になるんですから、そういう考えも今後考えていって、そして対馬の発展に寄与していただきたい。

以上です。答弁は要りません。

○議長（初村 久藏君） これで小宮教義君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は11時10分からとします。

午前10時50分休憩

午前11時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） 皆さん、改めましておはようございます。10番議員、対政会の小島徳重です。通告に従い、3項目6点お尋ねします。

1項目めは、対馬市SDGs未来都市計画及びアクションプランの実効性についてお尋ねします。

1点目、10月20日、21日に開催された対馬未来会議2023のワークショップでは、

対馬の未来を見据えたアイデアが続出したとの報道がなされていますが、継続性・実効性のある事例があったらお尋ねをしたいと思います。

2点目、SDG sの実現・具現化の中で、海業の展開が最も大切ではないかと考えております。対馬のSDG s、経済を循環させるための大事なポイントだと考えますので、上対馬町漁協の海業振興モデル地区以外へも海業の理念、事業を広げていくべきであると考えます。市長の見解を求めたいと思います。

3点目は、SDG s未来都市計画、アクションプランのビジョン・施策の浸透については、9月定例会でお尋ねしたところ、徐々に浸透しているとの答弁がありましたが、まだ十分に浸透していないのではないかと考えます。SDG sを島内外に浸透させるため、島内数か所、目立つところに「ごみゼロアイランド対馬宣言」と併せて立て看板を設置して、皆さんに周知するのはどうでしょうかということをご提案をしております。

大きな2項目めとして、対馬市における女性活躍社会の実現についてお尋ねします。

対馬市では、2017年3月に、第3次対馬市男女共同参画計画、2022年3月には第4次計画が策定されました。これは、第2次対馬市総合計画の基本理念を踏まえて、男女共同参画社会基本法の趣旨や理念に基づいて男女共同参画を進めるための指針とされています。対馬市における女性活躍社会の実現に向けての現状と今後の取組についてお尋ねをします。

3項目めは、オーガニック給食の推進についてお尋ねをします。

このことについては6月定例会にお尋ねしましたが、今回は、その後の教育委員会あるいは関係部署との取組についてお尋ねをします。

教育長答弁にあったように、減農薬米の使用を拡大するという基本的な考え方を持っているということでしたので、それが現段階でどのように進行しているのかお尋ねをします。

2点目は、オーガニック食材を取り入れた給食の可能性を探るための関係機関等からの情報収集も進めたいというふうな答弁でしたので、その後どのように進展しているのかお尋ねをしたいと思います。

以上、どうぞ御答弁のほうをよろしくお願いをいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 小島議員の質問にお答えいたします。

初めに、本市のSDG sの推進についてでございますが、対馬市SDG sアクションプランの行動理念でありますSDG sを通じて環境・社会・経済の三側面を調和させ、これから起こりうるリスクを乗り越えながら、誰一人取り残さない持続可能な社会の形成に向け取組を進めているところでございます。

御質問のとおり、対馬未来会議2023は、10月20日、21日の2日間の日程で豊玉町千

尋藻漁村センターで開催されました。主催したBOI、ブルーオーシャン・イニシアチブは、海の保全と繁栄を目的とした企業連合で、島外からBOI会員、関係者及びスタッフ35人が来島され、島内事業者及び市の関係職員の総勢59人が参加し、2050年までに対馬を世界最先端のサステナブル・アイランドにすることを目標に掲げ、議論が交わされました。

この対馬未来会議は規模を拡大し、来年も対馬で開催予定となっており、今回は第1回目の開催でありました。

1日目には、島外からお越しいただいた参加者は、対馬の社会課題発見ツアーに御参加いただき、本市で課題となっている漂着ごみ問題、磯焼け問題、また本市で進めているマグロや海藻養殖の取組など、対馬市が抱える問題や課題、取組を実際に見ていただきました。

2日目の対馬未来会議は、目標達成に向けた活動テーマの設定が目的であり、海洋プラスチック削減、海洋資源保全と海業活性化、海洋と気候変動対応の3つのグループテーマを設定し、現地視察での気づきなどディスカッションが行われ、目標達成に向けた7つの活動テーマが設定されております。

今後は、この7つの活動テーマごとに分科会が設置され、実行力のあるものに取り組を進めてまいります。

このBOIとの連携協定に基づく取組は、来年、対馬未来会議で中間成果発表を行い、2025年の大阪・関西万博において活動発表を行うこととしており、目標の達成に向け、対馬の視点で問題解決を図ることとしておりますので、引き続きBOIと連携し、取り組んでまいります。

次に、海業についてでございますが、海業とは、御存じのように、海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、国内外からの多様なニーズに応えることにより、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるところでありますが、多くの漁村では、全国平均を上回る速さで人口減少や高齢化が進行し、浜の活力が低下しております。

このような現状において、漁村の活性化を図る重要な施策として、近年、海業が注目されており、水産庁のほか、幅広い省庁から様々な関連メニューが示され、今後、積極的な活用が期待されるところであります。

海業の振興を図る上で、先行事例を創出し、広く普及を図っていくため、令和5年3月、海業振興モデル地区が全国で12地区選定され、今後5年間でおおむね500件の海業等につなげることが目標とされております。このうち対馬市内で上対馬町漁協管内がモデル地区の選定を受け、漁業振興コンシェルジュの派遣、指導の下、上対馬地区海業振興協議会が設立され、漁協、観光物産協会等、民間の幅広く自由な発想に基づく事業メニューの掘り起こしが検討されております。

海業に活用可能な地域資源として、漁港は、狭隘な漁村において静穏な水域と事業用地が確保

され、海洋資源の利活用を行いやすく、海業の展開に適しているとされております。

中でも、対馬市は日本一の漁港数を誇り、豊かな水産資源、観光資源などを有するなどの優位性があることから、増加傾向にある国内外観光客の受皿として、幅広く島の魅力を発信できるポテンシャルを有していると自負しております。

今後の海業振興には漁港の有効活用は欠かせないものであり、漁港施設の利用要件緩和等において、国・県に要望することで民間事業者の参入しやすい環境づくりにつなげることが対馬市の役割であると考えております。

併せまして、海業の推進・拡大には、水産業と大きな経済効果が期待できる観光業との融合を図る必要があります。関係者間の調整、情報共有機能を担うことも大きな役割となつてまいります。民間の発想力、実行力を、迅速かつ有効に事業実施につなげるため、対馬市として必要な支援体制を構築し、連携強化に取り組んでまいります。

また、対馬市SDGsアクションプランに掲げる7つの重点アクションのうち、持続可能な農林水産業及びサステナブルツーリズムを実現するため、海業振興モデル地区を先行事例としながら、官民連携によるノウハウを蓄積し、今後、対馬全域で幅広い事業展開につなげることで、海業先進地として全国に情報発信できる漁村づくりに努めてまいります。

次に、SDGsの推進及びごみゼロアイランド対馬宣言の周知を図るため、市内数か所に立て看板を設置する考えはないかとの御質問でございますが、対馬の玄関口であります対馬空港や厳原港並びに比田勝港ターミナルなど、まずは設置場所や掲載内容等を検討するよう関係部に指示しておりますので、設置に向けて積極的に進めてまいります。

次に、大きな2点目の女性活躍推進についてでございますが、国においては、2016年4月に、職業生活において女性が活躍しやすい環境をつくることを目的に、10年間の時限立法として、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律、略して女性活躍推進法が施行されております。

国は、この法律に基づく取組を着実に実行していくため、令和5年6月に、女性活躍・男女共同参画の重点方針2023を策定し、取組を進めているところであります。

しかしながら、国の現状は、女性活躍に向けた環境づくりについて、世界的に見ても立ち遅れている状況であり、この対馬市においても十分な取組ができていない状況であります。

この現状を踏まえ、対馬市としては女性活躍に特化した取組ではありませんが、男女問わず全ての労働者が働きやすい環境づくりを推進するため、市内の事業所を対象とした働きやすい職場認定制度を令和6年度から取り組む予定としております。まずは、女性を含めた職場環境の改善を推進しながら、併せて女性活躍に向けた取組を進めていきたいと考えております。

女性活躍社会を推進していくためには、女性の役員・管理職の登用比率向上や女性起業家の育

成、家事・育児に対応した多様で柔軟な働き方の推進、女性に対する暴力、性犯罪等に対する対策の強化などの取組が必要であります。まずは、市役所においてその環境づくりの模範となる取組を推進し、各事業所への波及、推進に取り組んでいかなければならないと考えており、働く女性や事業者などの意見も踏まえながら、女性活躍社会の推進に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

私のほうからは以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 小島議員の御質問にお答えいたします。

初めに、減農薬米を拡大する計画の進展についてでございますが、対馬市の対馬市食育・地産地消推進計画の中に、学校給食における減農薬米等の利用の推進について記載されており、学校給食共同調理場は、対馬市の学校給食地産地消推進事業補助金を活用して取り組んでおります。

この学校給食地産地消推進事業補助金は、減農薬米以外の米も対象としており、対馬産農産物全ての利用を推進しております。この補助金には上限もありますので、その中で各調理場が可能な限り地場産品を利用しているところです。

今年度の各調理場における減農薬米の使用状況を確認したところ、6調理場のうち3調理場で使用、残りの3調理場は近場の地元農家の米を使用しております。

今後におきましても、減農薬米の使用を含め、地域米の使用を各調理場の実情に応じて進めていきたいと考えております。

次に、オーガニック食材を取り入れた給食の可能性を探るための関係機関等からの情報収集についてでございますが、担当部署に再度確認いたしましたが、現時点では対馬市内にオーガニック食材を提供できる生産者はございませんでした。また、長崎県給食会でも取り扱っていないということです。

有機JAS認証制度は、安心・安全な作物であることを証明するためのものでありますが、この認証を受けるためには、生産者の皆様に大きな御負担をお願いすることにもなります。教育委員会の立場からは、学校給食のために従来の生産方法の変更をお願いすることは困難であると考えております。また、物価高騰により現在の給食費では運営が困難な状況にもあり、オーガニック食材の使用はその状況に拍車をかけることになるため、現状では現実的ではないと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） はい、御答弁ありがとうございました。

今から一問一答で、また少し細かい点も含めながら詰めたと思いますが、まず一問一答に入

る前に、議長にちょっとお願いをしておきたいと思います。

昨日、私、自宅に帰りましたら、市民の方から電話がありました。どんな内容かという、昨日の議会の中での議場の発言とか、あるいは振る舞いの中で、何か議会としてふさわしくない言動があったんじゃないかと。大変見苦しかったというようなことを聞きました。

私もこの一問一答をやらせていただく中で、熱中といいますか——しますと、失礼なまたそういう振る舞いをしたらいけませんので、そういうことがあったときは、どうぞ議長、適切な指摘や指導をお願いをしておきたいと思います。自戒を込めて一応、昨日のことの市民からのそういう声を議場でお伝えをしておきたいと思っています。よろしゅうございますか。

○議長（初村 久藏君） はい、ありがとうございます。

○議員（10番 小島 徳重君） それを、そういうことで一問一答で詰めをさせていただきますが、まず、市長のほうから御答弁いただいて、大変前向きな御答弁をいただいたように全体的に思っております。

昨日、私どもの対政会の中では、会派代表質問で、波田議員のほうがいろいろお尋ねしたんですが、その中で、1期、2期目の検証とともに、3期目に向けて実現可能な施策についてというこの項目がありましたけれども、その部分を私も補完するといいますか、そういう立場で少しお尋ねをしていきたいと思います。

それで、1期、2期目の市長の実績とか評価とかいう点では、昨日もいろいろ議論があったところなんです、私、まず、特に今年、半年以上にわたって、核ごみ処分場を受け入れるかどうかということについて、議会だけじゃなくて市民、広く、それから島外の方々の関心もあったわけですが、そのことの中で、対馬市長が、比田勝市長が判断されたことに対する評価というか、かなり高い評価が私どものところにも届いております。もちろん、市長のところにもそういう評価は届いているんじゃないかというふうに思います。

1つ目の例を読み上げてみたいと思います。これは、日本科学者会議原子力問題研究委員会というところと日本科学者会議の長崎県支部が、対馬市長の決断を支持するというで声明を出されました。その中の内容としては、こういう文面があります。

9月12日の市議会本会議での採決結果は10対8でした。すなわち、市議会では賛否が拮抗したため、最終決断を委ねられた市長は、「市民の合意形成が不十分」として、応募しない考えを示したわけです。全般的に見れば、このような熟慮過程は地方自治と民主主義のお手本と言えます。

こういうふうな文言があります。透明性ある手続と公衆——これは市民という意味です。公衆参加による健全な世論形成を支持するとともに、ということで、これは島外からの、あるいは学者団体からのこういう評価ですということで、市長、大きな決断されたわけですけど、これを決断、

苦渋の判断だったということは昨日も述べられましたけど、多分、大変な重荷だったろうと思うんです。しかしそういう評価がありますよということです。

このことの評価というのは、対馬の中でもいろんな立場でそれぞれ意見、賛否あるのは当然だと思いますが、私、先日、少年の主張、今年から名称変わりましたが、この中で、中学生の方々が発表した中での意見の中に、やはりこれは中学生も含めて、対馬の在り方を考える貴重な場だったと、これ大変な重荷の大きなことだったんですけど、その中学生のちょっと作文を読ませていただきたいと思います。

これ、最優秀を取られた久田中学校の、個人名は申し上げませんが、生徒さんの作文です。

「対馬には遊園地も大きなショッピングモールもありません。ですが、それでも私はこの自然と歴史があふれるふるさとを誇りに思っています。この島独自の魅力を多くの人に知ってほしいと願っています」。これは中ほどの発表の内容です。最後のところでこういう締めがありました。「私たち自身が心からふるさとを誇りに思えば、自分の出会う人たちにその良さを伝えていける。私はそう思います」。そして最後は、「あなたのふるさとはどこですか。そのふるさとにはどんな良さがありますか。あなたはふるさとを誇りに思っていますか。私はふるさと対馬が大好きです」とこういうふう結びでした。

それからもう一方、これは東部中学校の生徒さんでした。この方は、学校の授業で、学校外から出前授業といっているいろんな職業の方々が来て、それを中学生が話を聞いた。その中で自分が感じたこととしてこういうことを述べてありました。「高齢化が進んでいる対馬では、介護施設の利用者が増え続けているそうです。けれど、若者は島外での就職を希望して、出ていく人が多いです。このままでは、高齢者は増えるのにお世話をする若者はいなくなってしまうかもしれません」。それから先です。「私は自然豊かで地震や災害も少ない住みやすい対馬がずっとこのままの対馬であってほしいと思っています。この対馬を守っているのは対馬で働く人たちの対馬を思う熱い思いだということを知り、私もこの対馬を守る力になりたいと思いました。これからは必要となる介護の仕事について、高齢者の方のお世話をし対馬を守っていきたくと思っています」、こういうふうな内容です。

これは、やはり市長が対馬の、私たちの想像がつかない末長い先のことを思って決断されたことが、これは中学生にもこのような気持ちで、対馬は何かと、対馬をどうすればいいのかということを一生涯考えた結果の表れだと思って御紹介をさせていただきました。

そういう理念といえますか、感情だけで人間生きていけないわけですから、これから市長が3期目に向かわれている施策としてのことを少しお聞きしたいと思います。

私は、これで3回続けて対馬のSDGsのことを取り上げさせていただきました。なぜこれを取り上げているかといいますと、このことのビジョンそのものを打ち出された、そして国が認め

てくれたということは、これは対馬にとってすごく大きな柱だと思うんですよ。これ、今動き出して、そしてアクションプランまでできました。具体化が進む中で、市長も行政報告でも述べられましたし、昨日の代表質問や一般質問のときにも言われましたけれども、動き出したことを幾つか紹介がありました。

ここに出しているこのパネルは、大阪・関西万博の内容で、これはこのようなドームをつくって、世界的に海の環境をアピールしますという内容です。これはもう代表的な例ですけれども、それが具体的に今度は起業化されていって、そしてたくさんの人がやってこられるということですから、このことは大いに評価したいと思いますし、ぜひこれをもっともっと企業進出に結びつくようなことをやっていただきたいということを前置きをして、話を進めたいと思います。

その中で、やはりSDGsの中で対馬市の在り方としては、経済の循環ということを行っているわけですが、その中核として、市長の今の答弁にもありましたけれども、いわゆる海に関して、漁業、水産業、それプラスいわゆる観光業ということで海業ということの説明があったんですけども、この位置づけを市長がしっかりしていただくことが大事だと思っていたら、そういうふうな御答弁がありましたので、安心をいたしました。

私が言いたいのは、上対馬の例です。これは上対馬町漁協が中核となっていていろいろ計画されているんですが、市長がおっしゃったように、これだけ、上対馬町漁協の考えだけで、これはすごく大きなプロジェクトだと思っていますから、これだけでは不十分だということで、市長がおっしゃったように島内全部でこういう事業を進めたいということですが、そのあたり、国の指定は今年12、全国で500か所、5年間ということですが、次の順番は対馬市に回ってくる可能性はすぐにはないと思いますが、ほかの地域に広げるという点では、市長おっしゃったことをもう一度、全島的に広げたいということですが、具体的な何かイメージとしてはありますか。どこの地区ぐらい、何地区ぐらいでとか、各漁協単位でとか、そのあたりもう少しお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） はい。今現在、この上対馬町漁協のほうが海業のモデル地区になっておりますけれども、むしろ今、民間サイドのほうで既に海業の先進的な事業を進めてくださっている会社が、名前言っているのかどうかちょっと分かりませんが、ございます。このことが本当の漁業と観光の融合というようなことで進められているところでございます。

私も、実はこの前も上対馬町漁協、そして美津島町西海漁協の青壮年部のグラウンドゴルフ大会にちょっと呼ばれたもんですから、行って、皆さんにもちょっと話はしてきたんですけども、要は、今、議員おっしゃられるように、この海業を今後、全島的にも広めていきたい。まず、そういった青壮年部の若い経営者の皆様にそういったことを植え付けていくことが重要ではないかなという思いを持って話もしました。そういうことで、今後できる限り、チャンスがある限り、



そういうことで話を広めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） ありがとうございます。

それで、具体的なその点について、それはパネル出していたのはこれは環境省のほうが、グッドライフアワードということで、環境大臣賞を10団体に出した中、その中に対馬のいわゆる水産会社とコンサルといますか、コーディネートした団体が表彰されたと、つい先日です。これがいい例だと思うんですよ。このことをもう少し説明をすところということになると思います。

市長、おっしゃったように、これはいわゆる食害魚を捕獲した、これは漁業者が捕獲したと。そして、いわゆる加工業者が工夫して加工したと。そして、これが商品化されていると。それを結びつけたのは、いわゆる一般社団法人のMITさんです。これの後押しをしたのが行政が支援したと。それで組み立っているわけで、今、市長おっしゃったように、民間の力、そしてそれをコーディネートといますか、お世話する人がやっぱりないと、なかなかうまくこんなふうには組み立たない。

そこで、対馬市各地区でということをやるときに、やっぱり市がまずは補助しますよという後ろ盾があって、そして世話する人の力、コーディネート、コンサルの力が必要だと思うんです。そこで、現場で声を聞きますと、やっぱりコーディネートする人の人材が足りないということを知ります。このことについては、ぜひ国の専門家をこの海業について派遣するというような項目がありますし、協働隊でも市独自でも、やっぱり人をここに入れるべきだと思いますが、そのことについては、市長、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 実は、私も個人的でありますけれども、今、長崎県の漁港漁場協会の会長をちょっと引き受けておまして、この海業ということで、県下の各漁港関係にもこれを推進しているところでございます。そういう関係もありまして、私も先ほど申されましたように、この水産と観光とを結びつけるコーディネーター、ここら辺に対しても、今後どのような助成ができていくのか、また必要なのか。研究しながら、前向きにここは進めてまいりたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） ぜひそれを進めていただきたいと思います。最初の御答弁でもあったように、この考え方は、対馬のためというか、対馬や離島、あるいは漁村にとってすごく大きな国の施策の展開だと思います。これを生かさないと、やはり島外からのいろんな企業を進出していただく、これはもちろんですけど、やっぱりそれだけじゃなくて、アンケートを見たら、対馬の人たちがSDGsのアンケートを見たときに何を一番希望しているかといったら、300人回答された中で百九十数名は海の振興をお願いというのが上がっています。これはもう

アンケートを見ていただいたら分かると思います。

だからぜひ、そのことは、市長が言明されたんですから、3期に向かわれる中で、市民にも大きくアピールしていただきたいなと思っています。

それから、このことをアピールするために立て看板、これはやっぱり必要じゃないかということ、市長、それを言明されましたので、ぜひこれはつくっていただいて、そしてこれをつくることによって対馬市市民一人一人にも、やっぱり自分たちの生きる道はごみゼロなんだと、それから海なんだと、それからSDGsの考え方というのはこうなんだということを広く周知するために、ぜひシンボルとして必要だと思います。

それから、市民の中でSDGsのことをよく実行しているとか理解しているという人たちは、市長おっしゃったように、30代の子育て中の方が多いです。逆に、そのことの認識が薄いのは、20代前半、それから高齢者、私たち含めて。これが意識が薄いということがアンケートで出ています。

で、このことについては、対馬市SDGsの概要版というのを作っていますよね。これ事務局に聞いたら、各世帯配りましたかといったら、配布してないということでしたけどこれは配布する予定はないんですか。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 今のところ、各世帯に配布する計画はいたしておりません。今、ホームページに掲載しているということです。

○議長（初村 久藏君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） この機会に、これ一部何十円かでするんじゃないですか。市長はそんなふうに言明されたんですから各部署、特にしまづくりを中心に、これを絶対島のために浸透させて設定させるんだということだったら、これを各世帯に1万3,000なり5,000なりは配ってくださいよ。そしたら高齢者にも分かりやすいし、ほか意識の薄い人にも浸透しますよ。そしたらごみもポイ捨てが減ったりとか、自分たちがごみをどう処理したらいいかということも徹底できると思いますから、ぜひお願いをしておきます。

このことばかり言いよったら残り10分になりましたので、女性活躍社会も、市長が総括されたように、いろいろ課題があるということを認識をされております。

こういうような資料がありました。これは、長崎県ジェンダーギャップ調査というやつで、これはタブレットにも入れておりますけれども、長崎県で男女共同参画がうまくいっているかどうかということを見たら、行政は全国で35位、教育は39位、経済は、女性が頑張っている。

12位。政治は39位、このように、民間のところの経済のところは頑張っている。これ女性が頑張っているということが、例えば最近では、商工会の女性で、部の中で江嶋さんが県の会長を

されたり全国の副会長をされているということを知りました。それから、小川さんが全国の意見発表で最優秀をとられたとか、これはやっぱり対馬の女性で頑張っている例だと思うんです。

ところが、薄いのは、やっぱり政治の分野で女性議員が少ない。それから、それ以上に行政の中での女性の活躍というのが少ないということ、これは資料として出しています。手元にタブレットがあると思いますが、女性の審議会の委員等は、242名中女性は41名、14.5%。それから、審議会の委員のほうです、今度は。審議会じゃなくて、例えば教育委員会等の委員の方は、37名中女性は4名、これは9.8%ということになっています。この比率は、市長どういうふうに捉えてありますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この資料に基づきますと、やはりちょっと少ないなという思いを持っております。と申しますのも、以前、総合計画関係の審査会の折に、大学の先生が審査委員長としてお見えになったときに、市の職員関係が女性が1名だけだったということで、ちょっときついお言葉をいただきました。私もその際もちょっと反省もしておりましたけれども、やはりこのところはもう少し女性活躍社会にのっかって、数字を上げていければいいなというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） まず、役所のほうは、そこに挙げている数のおりなんです、これ女性職員は行政職だけを例にとれば27%ですか。だから、その割合で管理職出さない、つくりなさいというのは言いませんけれども、もう少しやっぱり女性管理職をつくるべきだと思います。これは能力的に、女性の中にも優れた方いっぱいいらっしゃるんです。それが発揮できないということは、やっぱり女性の励みにならないわけです。まあ、このひな壇見てもそうじゃないですか。全員ひな壇、男性です。せめてやっぱりこのひな壇に並ぶ方の中でも、1名なり2名なり、やっぱりそういう人材を、今すぐできなくても、つくれるようなシステムをやっぱり考えるべきだというふうに思います。

そして、審議会のほうの委員とか委員会関係の委員は、これは市の目標は令和8年度までで30%となっています。令和8年度まで30%ですから、まだちょっと期間はありますけど、これもやはり30%という目標を掲げたなら、やっぱり今度、任期替えのときには、もっと女性の登用ということをした方が社会に活力が出るんじゃないかというふうに思いますので、このことも、現実と今後の動向の中で、ぜひ次のそういう市長の公約辺りにも取り上げていただいたらいかでしょうか。そしたら、女性へ励みが出ます。そして、若い女性も、私も大事にされてるんだなということになれば、定着がするというふうに私は考えています。

これ大変よくできています。女性活躍社会のことについては、枝がいっぱいあります。今日は、

もういわゆる委員とか管理職の件だけで触れましたけれども、女性がいい仕事ができるということをするためには、子育てだとか介護の施設の充実とかということはまた後日、触れたいというふうに思っています。

それから、教育委員会の方、御答弁いただいて、減農薬米は進めるということのお話がありましたので、ぜひ全部が行き届くように進めていただきたいと思います。対馬のお米を作っている農家の数と生産量からすると、学校給食に使う量は大体30分の1くらいですか。だから、十分対馬の地元米で賄えるし、その中で全部減農薬米に変えることは現実的に可能だと思います。

そして、有機農業、オーガニック農業については、給食については現実的に難しいという答弁を教育長されましたけど、これは確かに価格は高くなります、オーガニック給食をやると。しかし、これ全国的にもそれは進んでいるということは前回の答弁でもされたわけです。やっぱりこれは農業関係の部署と、対馬の中でもそういうことが可能かどうかは検討していくべきだと思います。もう今の答弁で終わりだったら、これ全然先は見えんじゃないですか。その辺りはまだずっと研究段階でもいいですから、特に農林水産部関係との詰めをお願い、研究をしていただきたいと思いますが、教育長いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 御指摘ありがとうございます。

年に4回、13の市の教育長の会議があるんですけども、先日行われた会議においてもこのことが話題になりました。今現在、例えば今年は南島原市でオーガニック給食が提供された実績がございます。ただ、現在の各市の取組としてはイベント的に、1回だけぐらいならできるけども、まだまだ給食で使用できるだけの食材の安定的な供給は受ける環境にないというのが課題になっています。対馬市の場合は、先ほども申し上げましたけども、今現在、島内にそういう農家がございますので、島外からそういう作物を仕入れるとなると、地場産品を使うということとの整合性がつかなくなりますので、現在、非常に難しいんですけども、おっしゃることはもっともですし、他市の状況を見ると、学校給食で使用するからということでオーガニック農家が育つというような構図も生まれてきてはおりますので、関係部署と今後も協議を続けてまいりたいと思います。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） このオーガニック給食については、有機農業を成立させなきゃいけないということなんですね。それで費用がかさむということは十分分かっているんですけど、今、給食についても全国的に給食の無償化ということが言われ出しましたし、県下でも自治体によっては波佐見町が来月から無償化ということを出しています。佐世保市は、中3から無償

化に入っていくという時代です。やっぱり子どもは地域の宝、将来の宝といいます。やっぱり給食、子どもたちを中心にして、給食を起点にして、農業、有機農業が対馬にも入れるような、そういう気概を持ってほしいなと思います。

コストが高いからとか、現実、今ないからとかいうことを言っていたら、何も事が始まらないんじゃないかなということで、ぜひ教育長さん、あるいは市長に、そのことは今後の課題として投げかけておきたいというふうに思います。

以上で終わります。

議長、大変御心配をかけたけど、失礼なことはなかったでしょうか。

○議長（初村 久藏君） いいえ、大丈夫です。

○議員（10番 小島 徳重君） ああそうですか。安心しました。これで終わります。

○議長（初村 久藏君） これで小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩とします。再開は午後1時5分からといたします。

午後0時01分休憩

午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。18番、春田新一君。

○議員（18番 春田 新一君） 皆さん、こんにちは。久しぶりに一般質問席に立ったような気がいたしております。

まず、第2回定例会、第3回定例会、最終日までは、特定放射性廃棄物の最終処分に関わる請願審査も含めて、本当に対馬の中が揺れに揺れたというふうに思っております。その間、私のほうには、一市民から、反対をしてくださいという手紙が5通、賛成のほうからは3通、全体で8通いただいております。いずれも手紙の中身は、自分たちが生まれ育った島の過去、それからこの未来をしっかりと考える文面であったんじゃないかなというふうに、今、推測をしております。心を打たれる文面もあり、この場を借りまして、厚くお礼を申し上げます。

それからまた、私の議会に入る前のボランティアの10年間、そしてまた議会に入ってから議会活動に対する10年間を、非常に日頃から観察をしていただきまして、本当にありがたく、心からお礼を申し上げる次第でございます。

また、9月定例会以降にいただいた手紙では、賛成したことについて説明が欲しいという文面でありました。一市民ということで、住所も氏名も書いてありませんので、できれば電話をいただければ、私のほうから足を運んで説明をしたいというふうに思っておりますので、お聞きにな